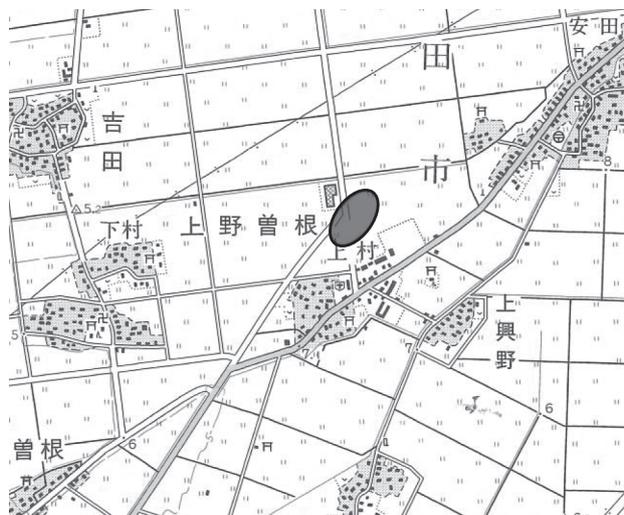


かみそね 上曾根遺跡 (第3次)

遺跡番号 204-076
調査回数 第3次
所在地 山形県酒田市上野曾根字上中割
北緯・東経 38度56分45秒・139度53分17秒
調査委託者 山形県庄内総合支庁建設部道路計画課
起因事業 一般国道344号道路改築事業(安田バイパス)
調査面積 5,400㎡
受託期間 平成31年4月1日～令和2年3月31日
現地調査 令和元年6月4日～12月6日
調査担当者 齊藤主税(現場責任者)・高桑 登・加藤津奈樹
調査協力 酒田市教育委員会・山形県庄内教育事務所
遺跡種別 集落跡
時代 奈良時代・平安時代・近世
遺構 掘立柱建物跡・柱列・井戸跡・土坑・柱穴・溝跡
遺物 土師器・須恵器・陶磁器・木製品・石製品・古銭(文化財認定箱数:61箱)



遺跡位置図 (1:25,000)

調査の概要

上曾根遺跡は、酒田市上曾根地区に所在する。河岸低地の東西に延びる自然堤防(微高地)上に立地し、標高は約7.5mを測る。遺跡は、1986年と1988年に農村基盤総合整備事業や道路改良事業などに伴い県教育委員会が主体となり第1次・2次発掘調査を実施した。

遺構と遺物

今回の調査では、調査区全体から奈良・平安時代の掘立柱建物跡や柱穴群・井戸跡・土坑・柱列・溝跡などが

検出された。遺構の中からは土師器・須恵器や木製品等が多数出土している。

1980年代の第1次調査・2次調査では掘立柱建物跡5棟・井戸跡6基・土坑34基・溝跡15条・塚3基・柱穴多数が検出されている。調査した井戸跡からは井戸枿材や柄杓・箸などが出土した。これらのほとんどが平安時代9世紀後半以降である。この他に中世の井戸跡や土坑、近世の溝跡も検出されている。出土した木製品は年輪年代測定法により1003年の柄杓、1276年の曲げ物底板の年代が得られている。中世の土坑からは2か所に人面線刻画が描かれた「砥石」が出土し注目された。この他に3基の塚状遺構が調査されたが遺物が出土しておらず時代・性格ともに不明である。

今回の調査で検出されたSB163掘立柱建物跡は2間×3間(5m×7m)の規模である。これらの他に楚板を伴う柱穴等が幾つも検出され、SB163以外にも建物跡が存在したことは確実であるが何棟存在していたかは不明である。井戸跡は3基が検出されている。それぞれに齋串と呼ばれる「穢れを払う呪いの道具」としての木製品が出土している。特に井戸跡SE123では特徴的な同一形態の齋串が多数出土している。長さは20cm前後、

幅 1 cm、小角材～板材の上下両端を斜めにカットした形である。この形態の県内出土例では齋串の一種として僅かに出土するが主体となり出土する遺構は少ない。現在までの資料調査によると山陰地方から北陸地方など日本海側に広く分布しているものと推定される。他 2 基の井戸からも齋串が少量出土しているが、その形態は板状品で両側面に上下からササラ状の切り込みが入るものや、串状・棒状の齋串で出土例が多いものである。調査区の北側からは柱列が検出されている。直径 15 cm から 20 cm 程の規模で 36 基が南北に並列して検出された。調査区中央部では SD2 溝跡や SD159 溝跡が検出されそ

の幅は 14 m 程を測る。北から南へ延びて、やや西側に曲がる。溝の幅は 1m ～ 1.5m 前後で 9 世紀後半遺構の遺物が出土している。道路跡の可能性はある。

まとめ

調査の結果、奈良時代後半から平安時代の 8 世紀後半～9 世後半の集落跡、近世の溝跡を中心とした集落跡が検出された。齋串などの木製品が数多く出土し、当時の祭祀の様相を知る上での貴重な資料が得られた。

上曾根遺跡の 3km 東には人面墨描土器や大型齋串の出土した「俵田遺跡」、北東 3 km には平安時代の国府跡「城輪柵」が所在しており関連が窺われる。



写真 1 調査区全景（南西から）



写真 2 SA152 柱列（南から）



写真 3 SB163 掘立柱建物跡（北西から）



写真4 SE123 土層断面 (東から)



写真5 SE123 斎串出土状況 (南東から)



写真6 SE126 土層断面 (東から)



写真7 SE126 斎串出土状況 (南西から)

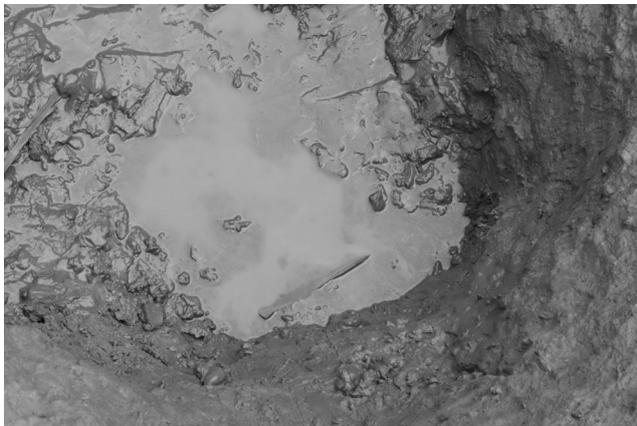


写真8 SK213 斎串出土状況 (西から)



写真9 SK52 遺物出土状況 (北から)



写真10 SX3 遺物出土状況 (北から)



写真11 SX3 墨書土器出土状況 (東から)

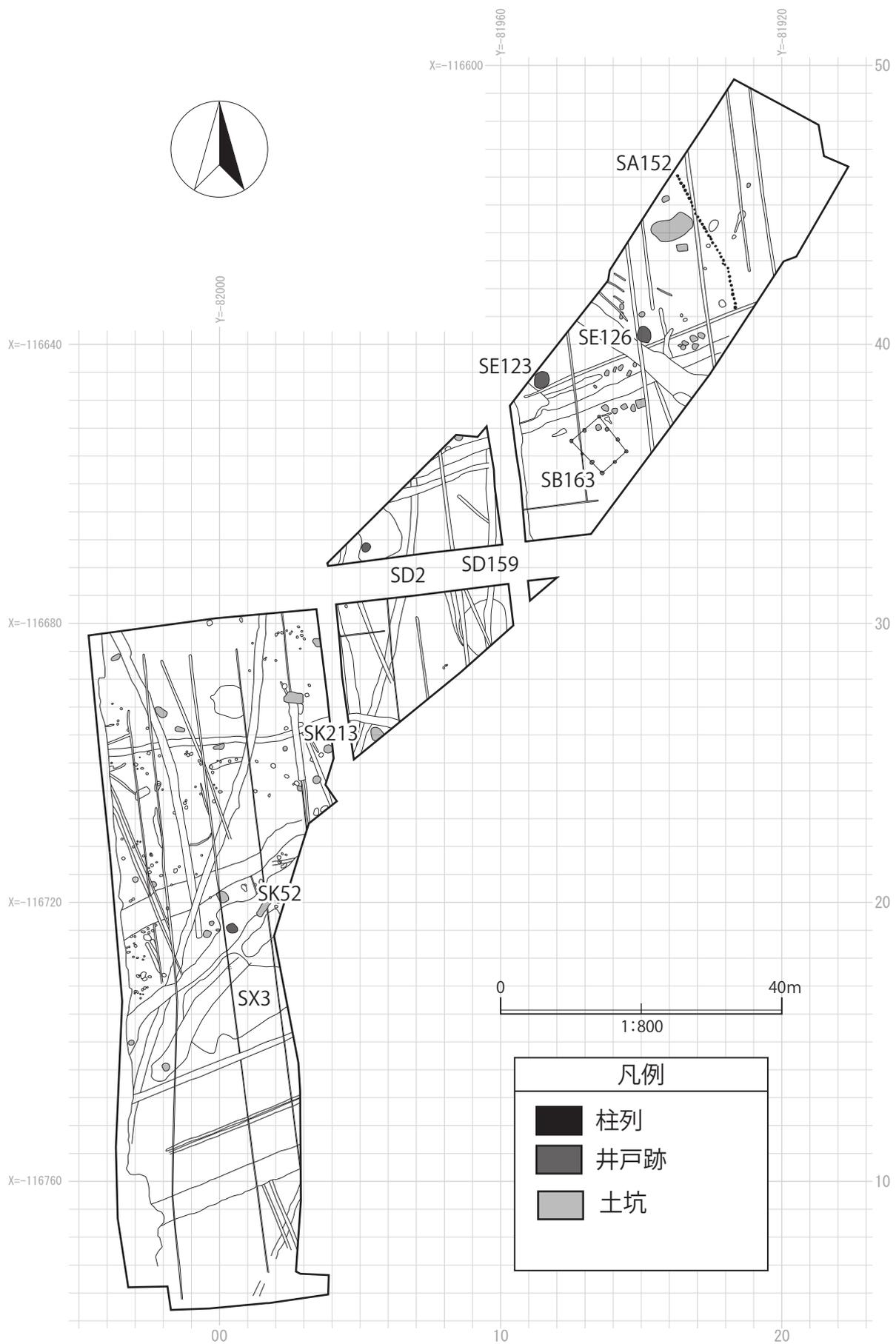


图1 遺構配置図(S=1:800)